

令和3年度第1回通常理事会、令和3年度定時評議員会議決

令和2年度 事業報告書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和2年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「令和2年度事業報告」を致します。

令和2年4月1日より令和3年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。また聖典を現代に即した内容にするため、ベトナム語とインドネシア語の改訂を終了した。またカンナダ語とマラーティ語の翻訳を進めるとともに、「仏教聖典」のより詳細な典拠の確認作業も進行中である。

◇「仏教聖典」オーディオ版販売開始

30年以上前に収録された「仏教聖典」のCDに代わるものとして、令和元年に「仏教聖典」の内容を完全に網羅したオーディオ版製作の元となる音源を収録。これをもとに、オーディオブック『仏教聖典』として、audiobook.jpより令和2年6月から販売を開始した。

◇インターネットでの「仏教聖典」頒布について

より多くの方がたに、母語で仏教聖典に触れていただくために平成31年3月より各国語仏教聖典のPDFデータをホームページに掲載し、全世界からのダウンロードを可能とした。令和2年度の総ダウンロード数は7,575件。日本語版が3,579件と圧倒的に多かったが、世界各国から英語をはじめさまざまな言語の聖典がダウンロードされた。

また平成24年に発売を開始した「仏教聖典」電子書籍版だが、令和2年は553冊の売り上げがあり、これまでの累計冊数は3,860冊となった。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル14軒、海外のホテル51軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和2年度の寄贈冊数は、国内5,125冊、海外150冊であった。海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は64カ国、15,591軒・4,134,515冊に至った。

◇簡体字仏教聖典』中国国内頒布について

宗教文化出版社との図書出版契約に基づき、『簡体字仏教聖典』1万部を印刷した。現在、中華人民共和国内各地の上海仏教会等の仏教会を通じて、中国国内の各寺院へ頒布すべく、中国共産党から最終の許可を待っている。なお、この「仏教聖典」の贈呈式は新型コロナウイルスが収束した時期に行う。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を喚起するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和2年度、大学・短期大学72校、中学校・高等学校86校、保育施設743園を中心に行い、総計で21,616冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、8年間の寄贈数累計は約440,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として10,745冊販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を積極的に行い、15,811冊を寄贈した。またカラー版の『ブッダに学ぶさどりの言葉』と合わせ、全国寺院や書店などに約2,500冊販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』スペイン語版翻訳について

一般読者にも仏教への関心が高まることを目的とし「仏教聖典」をより身近な聖典とするため作成した副読本『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』だが、英語版に引き続きスペイン語版の翻訳を進めている。令和3年度中に、BDKメキシコより出版の予定である。

◇『ブツダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブツダのおしえ』は、外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和2年は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版約30,000冊、英語版約12,000冊を頒布した。また、中国語繁体字版・中国語簡体字版・韓国語版・ヒンディー語版を含めた平成23年からの累計寄贈冊数は約1,145,000冊となった。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。令和2年度は『中論』をはじめとした11典籍の翻訳を受領し、仏教百科辞典ともいべき典籍である『法苑珠林(3)』『法苑珠林(4)』と『中阿含経(2)』の3巻を刊行した。現在までに部分受領典籍を含めた91典籍を61巻の「英訳大蔵経」として出版し、28典籍が翻訳進行中である。また、経典翻訳を速やかに完了させるための新たな方策として平成31年3月より東京大学印度哲学仏教学研究室に『瑜伽師地論』英訳の一部を委託している。また、インターネットで検索可能なデジタルデータとして、大正新修大蔵経テキストデータベース(通称: SAT)において、英訳大蔵経18典籍のデータを対訳公開しているが、これに『高僧法顯傳』、『異部宗輪論』の2典籍を加える準備を進めている。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へ「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、頒布している。

令和2年度は、「一日一訓カレンダー」六波羅蜜シリーズ1冊目の「布施」を刊行。壁掛け型・卓上型を製作し、合計約132,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『施しのこころ—布施—』(執筆者 名取芳彦師、釈徹宗師、吉村昇洋師)を教化教材として刊行し、約45,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2022年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第7回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。令和2年1月から令和2年8月末までの応募期間中に805件2,722枚が集まり、令和2年9月9日に審査員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは2021年6月発行予定。

また「第6回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺(令和2年4月25日-6月14日)、京都の平等院(令和2年6月26日-9月22日)、宮城の瑞巖寺(令和2年10月1日-11月4日※新型コロナウイルス拡大のため展示期間を短縮)にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の7月31日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

令和2年度は三会場合わせて期間中、約17万人の観光客が来場、入選写真と文言

の書を鑑賞した。

◇「釈尊絵伝絵画展」について

野生司香雪画伯顕彰会が香川県立ミュージアムにて開催した絵画展『野生司香雪とサールナートの仏伝壁画』に、当協会所蔵の『釈尊絵伝』原画7点を出品した。

永平寺所蔵の「初転法輪寺壁画下絵」をはじめ、画伯の生涯にわたる作品が一堂に展示された。初日には、香川県知事らを招いたテープカットのセレモニーとフォーラムが行われた。展示期間は令和2年9月1日-9月6日。来場者約1000人。

◇紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』販売

手塚プロ監修紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生（前編・後編）』を主に寺院向けに2000セットを印刷し、販売準備。価格は4,500円（消費税・送料込）。

令和2年度は1213セットを販売した。

◇「こころの絵本大賞」開催について

鈴木出版（株）協賛、毎日新聞社・（公社）日本仏教保育協会・（公財）全国青少年教化協議会後援のもと、家族・友だち・勇気・いのち・おもいやり・愛情をテーマに、子どもたちにこころの大切さを伝えるための絵本作品を広く一般から募集する第5回「こころの絵本大賞」を開催。令和2年9月14日に審査員会を開催し、146点の応募作品の中から入選作品8点を決定した。

第5回大賞受賞作品『がまぐちさん』（作・絵／山口亜耶）は、令和3年3月に刊行、全国の寺院・仏教系保育施設に約4,500冊を頒布した。

また、第4回大賞受賞作品『ア리가ダンスをおどったら』を寺院、保育施設を中心に約25,000冊を頒布した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とってもやさしい はじめての仏教』約42,000冊とその英訳版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』約3,000冊を寺院やミュージアム、観光案内所などを中心に寄贈した。中国語繁体字版、中国語簡体字版を加えた平成27年度からの累計寄贈冊数は約638,000冊となった。

また、日本語版・英語版を電子書籍として無償公開し、令和2年度には5,151件ダウンロードされた。

◇『Guide to Buddhism in Japan』スペイン語制作について

訪日観光客向けに日本の仏教寺院参拝作法、仏教に由来する日本文化を紹介する『はじめての仏教』の英訳版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』の好評を受け、スペイン語版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』の制作を行った。令和3年4月に出版予定である。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和2年度は世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでの一般公募に合わせて14名の応募があり、令和2年2月6日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Choten Dorji氏（チョーテン・ドルジ氏、ブータン国籍、京都大学）、Jonathan Edward Thomas氏（ジョナサン・エドワード・スマス氏、アメリカ国籍、東京大学）、Liyu Hua氏（華黎裕氏、中国国籍、東京大学）の3名を選出。令和2年度内に支給開始予定であったが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受けドルジ氏以外の2名は令和2年度中に来日できず研究計画を変更し、令和3年夏以降の来日を予定しており、現在ビザ申請中である。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和2年度は日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果4名の応募があり、令和2年2月6日に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、石村美幸氏（オーストリア・オーストリア科学アカデミー、1年留学）、京極祐希氏（フランス・パリ高等研究実習院、3ヶ月留学）、渡邊真儀氏（インド・アショークカ大学、4ヶ月留学）、富永曜照氏（アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校、5ヶ月留学）の4名を選出。令和2年度内に支給開始予定であったが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、富永氏以外の3名は渡航予定を変更。石村氏は令和3年4月に渡航が許可されたため現在支給中（令和3年5月現在）。京極氏、渡邊氏については依然として渡航できる状況ではないため支給を開始できない状況が続いているが、現状令和3年秋以降の渡航を予定し調整中である。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく目的で「奨学生交流会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の状況を受け開催を見送った。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

令和2年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に33通、沼田奨励賞に19通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、令和2年7月29日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の1名に賞を授与する事を決定、同年10月8日、第54回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞（賞金500万円）

受賞者：前田専學 氏

受賞理由：印度哲学の世界的権威。中村元氏の後継者として東京大学で教鞭を執り、東方研究会、日本印度学仏教学会理事長として学会の発展、人材育成に寄与。

仏教伝道文化賞沼田奨励賞（賞金300万円）該当者なし

3. 助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和2年度は、令和2年1月23日（木）に開催された助成金審査委員会の決定に基づき、以下の法人・団体に対して、国内7,377,700円、海外7,850,000円、海外US\$20,000（2,162,600円）、海外£30,000（4,156,500円）、海外€111,000（12,982,560円）、海外CA\$240,000（18,340,800円）の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内・団体支援助成〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、
フリースタイルな僧侶たち

〈国内・事業支援助成/仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益社団法人在家仏教協会、一般社団法人Project Gamon、
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、公益社団法人大谷保育協会

〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

公益財団法人中村元東方研究所

〈海外・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

エト ヴェシュ・ローランド(ELTE)大学仏教研究センター

〈海外・事業支援助成/仏教文化財保護活動〉

浄土真宗本願寺派本願寺ハワイ別院

〈海外・沼田仏教講座運営維持、新規開設支援助成〉

ウィーン大学、シカゴ大学神学部

〈国内・継続分〉

東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室、身延山大学

〈海外・継続分〉

ロンドン大学、ハンブルク大学（「沼田仏教学センター」）、ライデン大学、マクマスター大学、国立政治大学

また、以下は助成が決定したが新型コロナウイルス感染拡大による事業未実施のため不支給となった事業団体（不支給金額合計：11,160,000円）。

〈国内・事業支援助成/仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、全日本仏教青年会、H1法話グランプリ実行委員会、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座、世界仏教徒青年連盟、島根県仏教会

〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、公益財団法人日独文化研究所

〈国内・継続分〉

野生司香雪画伯顕彰会（2021年度支給に延期）

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の方々に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催してきた。令和2年度も平成28年度から講座参加者の学習意欲向上と外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として衣替えした「仏教英語ガイド」プログラムとして継続し、3級コースと2級コースそれぞれ月1回の講座開催を企画。3級講座に59名、2級講座に38名の参加申込があったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、当初は令和2年4月の第1回講座を延期し同年5月からの開始を目指したが、首都圏の感染者数などを鑑み令和2年度の開講を中止した。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和2年度は、6月3日から6月5日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「比叡山の仏道～回峯行に学ぶ」をテーマに掲げ、天台宗 総本山 比叡山延暦寺(滋賀県)を会場に「第50回実践布教研究会」の開催を予定したが、新型コロナウイルスの影響で1年延期した。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和2年度はご講師に塩入亮乗氏(聖観音宗浅草寺 法善院住職)、前田壽雄氏(武蔵野大学准教授)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。新型コロナウイルス感染拡大により4月を9月に延期振替、5月、6月、7月、1月は中止、2月を3月に延期振替し、計6回開催、のべ142名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和2年度はご講師に一楽眞氏(大谷大学教授)、千葉公慈氏(東北福祉大学学長)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。新型コロナウイルス感染拡大により、4月を9月に延期振替、5月、6月、7月、1月は中止。2月を3月に延期振替し、計6回開催、のべ121名の参加があった。なお、毎回の懇親会は取りやめた。

また毎年開催の経営に活かす会、生活に活かす会合同の「秋季研修会」は、新型コロナウイルスの影響で開催を見送った。

◇BDKシンポジウムについて

令和2年度は下記の4回のシンポジウムを企画、実施した。

なお、第53回仏教伝道文化賞を受賞した藤田徹文氏(浄土真宗本願寺派 光徳寺前住職)を講師に、令和2年7月20日、本願寺札幌別院(札幌市)にて開催を予定していたBDKシンポジウムは、新型コロナウイルスの影響のため、1年延期した。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和2年度第1回BDKシンポジウム(通算22回目)

テーマ:「新たな釈尊伝」

開催日時:令和2年9月12日(土) 13:00~15:00

講演者:森 章司氏(東洋大学名誉教授)

森氏がグループリーダーを務める中央学術研究所のグループ研究「原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究」の研究成果を踏まえた上で、釈尊の生涯における重

要な出来事と教団形成史を解説、釈尊の人物像及び仏教の始まりについて講演いただいた。参加者50名。

令和2年度第2回BDKシンポジウム（通算第17回延期分）

経営に活かす会 地方開催 名古屋編

テーマ：たった一度の人生をどう生きるか

開催日：令和2年10月28日（水）

時 間：18：00～20：00

会 場：AP名古屋（名古屋市）

講演者：青山俊董 氏（愛知専門尼僧堂 堂長）

初の名古屋での開催となったが、他県からの聴講も含め、多くのファンの方が駆けつけた。青山老師は「ゴールを目指すことも大切だが、その道程を楽しむことができれば、人生はより楽しくなる」と、自身の経験を交えて語られた。

参加者63名。

令和2年度第3回BDKシンポジウム（通算23回目）

テーマ：「仏教で人は幸せになれるのか」

開催日時：令和2年12月10日（木） 18:30～20:30

講演者：南 直哉 氏（福井県霊泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代）

「よく生きる」をキーワードに、幸せという曖昧な概念をどのように解釈し、仏教・宗教と向き合い、どの様ように人生の折り合いをつけていくのかをお話いただいた。参加者54名。

令和2年度第4回BDKシンポジウム（通算24回目）

テーマ：「仏教と緩和ケア」

開催日時：令和3年3月13日（土）13:00～15:00

講演者：玉置妙憂氏（看護師・高野山真言宗僧侶）

超高齢化社会の中にあってもなお死をタブー視する現代社会と現代医療、そして世界的に重要視されるようになってきたスピリチュアルケアについてお話しいただいた。BDKシンポジウムとして初めて会場参加とオンライン参加（ZOOMウェビナーによる視聴）を同時開催した。

会場参加者29名、オンライン参加者34名。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は浄土宗の僧侶で、ヨガインストラクターでもあるガッソ有香氏（令和2年4月～12月担当）とヨガインストラクターの佐藤ゴウ氏（令和3年1月～3月担当）に依頼し、仏教の法話とヨガの実践を交えた講座を開催。新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年4月から8月と1月は開催を中止し、9月、10月、11月、12月、2月（オンラインのみ）、3月の計6回開催した。令和2年度は年間を通してのべ141名（会場80名、オンライン61名＊内32名は10月オンライン無料体験参加）の参加があった。

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

一般の方がたを対象に、日本仏教の各宗派の持つ基本的な教義や宗祖を理解していただくため、4月から11月まで（8月を除く）、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）、各宗派を代表する若手の僧侶を講師として招き、基本講義60分、法話60分の構成で秋葉原駅近くの貸し会議室を会場に開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止、令和3年度に延期した。

令和2年度当初の開講予定は以下の通り。

開催日程	宗派・宗祖	講師名
4月28日（火）	天台宗・最澄	木内堯大氏
5月26日（火）	真言宗・空海	名取芳彦氏
6月30日（火）	浄土宗・法然	林田康順氏
7月28日（火）	浄土真宗・親鸞	井上見淳氏
9月29日（火）	日蓮宗・日蓮	山口顯辰氏
10月27日（火）	臨済宗・白隠	松本隆行氏
11月24日（火）	曹洞宗・道元	吉村昇洋氏

また、仏教についてももう少し深く勉強がしたいという定例講座参加者の要望に応えるため仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」2020特別編の開催を予定していたが、こちらも同様に開催を見送った。

◇特別坐禅会について

一般の方がたを対象に坐禅とヨガのワークショップ、精進料理を体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を平成28年から4回にわたり開催してきた。令和2年度は9月に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、会場である曹洞宗大本山総持寺での開催が不可能となり実施を見送った。

◇体感する仏教 ～目黒編～について

「様々な宗派のお寺で実践体験できる」というコンセプトのもと、ひろく一般の方がたに仏教を体験していただく「体感する仏教 ～目黒編～」を令和2年度は11月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、開催を見送った。

◇仏教を英語で学ぶ会 in 京都 “英語で学ぶ日本仏教の基本”について

当協会の活動の全国展開を促進する一つとして、当協会で開催している「仏教を初歩英語で学ぶ会」を、外国人観光客が多く、寺社仏閣を英語で説明する機会が多い京都で開講するという目的で、「英語で学ぶ日本仏教の基本」（Learning Basics of the Japanese Buddhism in English）を令和元年に全4回開講。令和2年度は全6回として前年度に引き続きLisa Grumbach氏（龍谷大学非常勤講師、IBS教授）を講師に招き、同講座を企画。特に関西地域の観光協会及び通訳ボランティア団体等に募集をし、定員35名に対して23名の参加申込があった。

全6回講座の内、前半3回は新型コロナウイルス感染防止対策をした上での対面講座として開講した。しかし令和2年12月からの全国的な感染拡大により、後半3回はオンライン講座に切り替えての開講となった。講座全6回、のべ参加者数は98名であった。

◇連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ」について

令和元年度から2年間の連続講座として連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ」を企画。令和元年度はパート1として、インドから発祥した北伝（チベット・ネパール・ブータン・モンゴル・中国・韓国・台湾）の仏教を取り上げた。令和2年度は引き続きパート2として、南伝（タイ・ラオス・カンボジア・インドネシア・ベトナム・ミャンマー・マレーシア）の仏教を取り上げ開講予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止、令和3年度に延期した。

令和2年度当初の開講予定は以下の通り。

開催日程	テーマ	講師名
4月23日（木）	タイ	矢野秀武 氏（駒澤大学教授）
5月28日（木）	ラオス	池上要靖 氏（身延山大学仏教学部長教授）
6月23日（火）	カンボジア	笹川秀夫 氏（立命館アジア太平洋大学教授）
7月30日（木）	インドネシア	木村敏明 氏（東北大学教授）
8月27日（木）	ベトナム	石井公成 氏（駒澤大学教授）
9月24日（木）	ミャンマー	藏本龍介 氏（東京大学東洋文化研究所准教授）
10月29日（木）	マレーシア	黄蘊 氏（尚絅大学准教授）

◇お寺の英語教室について

オリンピック・パラリンピックの年の特別イベントとして、寺院に参詣される外国人観光客の対応に必要な仏教英単語や会話フレーズを学んでもらうことを目的とし、全日本仏教青年会の協力のもと、僧侶・寺院関係者向けに仏教に特化した英語教室「お寺の英語教室」を企画。当初計画では主要都市及び地方都市数カ所の寺院等で開催予定であったが、新型コロナウイルスのまん延により、すべてZOOMミーティングを使用したオンライン開催に変更。寺院参詣者を案内するのに役立つ英語フレーズを学ぶ実用編と基本的な仏教の教えを説明するための英語フレーズを学ぶ応用編を令和2年9月から12月まで、各4回ずつ開催し、のべ381名が参加した。

◇仏教ヨガ講座Plusについて

近年注目されている瞑想を従来の「仏教ヨガ講座」に加えた「仏教ヨガ講座Plus はじめての瞑想」を企画。当初は令和2年6月、7月中に計4回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、12月以降4回開催に延期した。12月以降も感染拡大の影響を受け、1月が中止となり、結果12月から3月まで計3回を開催した。講師は高野山真言宗僧侶で、ヨガインストラクターでもあるMomo氏に依頼し、ヨガと法話と瞑想を交えた講座を実施。オンライン同時配信も行い（2月はオンライン配信のみ）、のべ66名（会場22名 オンライン44名）の参加があった。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送を平成30年6月より開始し、令和2年度からは放送時間を15分(毎週土曜日24時15分～24時30分)拡大し継続した。偶数月は僧侶、奇数月は若手芸人をゲストに招き様々な角度から仏教を取り上げ、番組の認知度が大きく向上した。ポッドキャストを通じて関西圏以外からも聴けるため、海外を含めて全国からメッセージが寄せられ、好評を得

ている。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2020」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS（TwitterやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2020」を開催した。第3回目を迎えた令和2年度は新たに「文化時報社」も協賛に加わり、令和2年7月1日から募集を開始。今回も投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、4か月の応募期間の間に昨年の第2回の総投稿数を700作品以上上回る総計1,677作品が集まった。今回の大賞は浄土真宗本願寺派明導寺の掲示板（標語内容「コロナよりも怖いのは人間だった 神奈川県ドラッグストア店員」）が選ばれた。

◇「仏教聖典」のありがたいことばキャンペーンについて

平成31年3月より仏教聖典46か国語版のPDFデータを仏教伝道協会のホームページに掲載に伴い、PDF版も含めて仏教聖典の教えに数多くの方々に広く触れていただきたいという思いから、昨年に引き続き「『仏教聖典』のありがたいことばキャンペーン」を開催した。これは仏教聖典の中の好きな教えやフレーズをTwitterにつぶやいてもらうシンプルな企画であり、一般の方、僧侶、仏教学の先生など数多くの人々がこのキャンペーンに参加した。応募期間は昨年よりも1か月間短い3か月間だったが、昨年を100以上上回る307ツイートがあった。

◇島根県仏教会主催 全日本仏教徒会議島根大会ブース出店について

令和2年10月2日（金）～3日（土） 島根県民会館にて、島根県仏教会主催、公益財団法人全日本仏教会共催にて第45回全日本仏教徒会議島根大会が開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により同大会が令和3年に延期となった。なお、同大会は令和3年10月に規模を縮小して開催される見込みである。

◇LINEアカウント作成・運用について

当協会の刊行物の出版や各種講座等の広報を行っているメールマガジン配信に加え、これまで以上に多くの方がたへ当協会の活動を広く周知するため当協会LINE公式アカウントを開設し、広報に活用している。

◇インスタ法話「こころが整う ほとけさまのお話し」について

新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、主催講座の多くが中止に追い込まれたが、その中でもできることをと考え、インスタグラムのライブ配信を利用したオンライン法話を企画、実施した。講師に、高野山真言宗功德院 松島龍戒先生を招き、令和2年7月30日午前10時から約10分間の法話を4回ライブ配信。毎回30名ほどが視聴し、中には海外（カリフォルニア、オーストラリア）から視聴していますとのコメントも寄せられた。

◇オンライン法話会「週刊法話ステーション」について

コロナ禍によりお寺での様ざまな行事が中止や延期を余儀なくされるなか、仏教に触れる機会が減少している状況を憂慮し、多くの方に仏教伝道の原点の一つである法話を届けるため、映像配信サービスZOOMウェビナー機能を使用したオンライン法話会を令和2年1月より始めた。月ごとに設定したテーマに基づく法話を1週間に一人の僧侶にお願いしている。僧侶は応募方式とし、ホームページ、SNS、全日本仏教青年会等を通じて広く全国より募集し、放送を継続している。放送は毎週水曜日（祝祭日除く）18時からの30分間。1月から3月末までの概要は以下の通り。

放送日程	テーマ	講師名
1月20日（水）	健康	青江覚峰 氏
1月27日（水）		塚田博教 氏
2月3日（水）	情報	小池陽人 氏
2月10日（水）		藤本大器 氏
2月17日（水）		小林恵俊 氏
2月24日（水）		西域哲英 氏
3月3日（水）	変化	松原大致 氏
3月10日（水）		牧野仁（釋悠水）氏
3月17日（水）		乙部大信 氏
3月24日（水）		平野晃嗣 氏
3月31日（水）		村上祥瑞 氏

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和2年度は、11月18日、築地本願寺本堂にて「第20回仏教音楽祭Buddhaspel〜パイプオルガンの夕べ」（定員250名/入場無料/18時開演）を開催した。

当協会が築地本願寺にパイプオルガンを寄贈し、上納式を挙げてから50周年を記念し、築地本願寺と共催した。

当日、コロナ禍にも関わらず、約250名が来場。浄土真宗本願寺派 大谷光淳門主より預かった祝辞が読み上げられたのち、「パイプオルガンをういた音楽法要」で幕を開けた。第2部は「小島弥寧子氏によるパイプオルガンソロ演奏」、第3部は「アンサンブル東風と小島弥寧子氏によるコンサート」。最後に「平和ソング」の合唱で幕を閉じた。

なお、東日本大震災より10年の令和3年3月に予定していた、宗門校合唱部を中心にボランティアを募り、福島に歌を届ける「コーラスボランティアGASSHO」（開催：福島県いわき市）は、新型コロナウイルスの影響で延期した。

3. 三田落語会の事業について

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣住民をはじめ一般の方がたに楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催する「三田落語会」に、協賛団体として協賛広告費5万円を支出した。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和2年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は85件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和2年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は83件であった。

Ⅲ. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(令和3年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事就任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	桂 紹隆	非常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事再任	広島大学名誉教授 龍谷大学名誉教授
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事、常務理事 再任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	門脇邦彦	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	生田忠士	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	元株式会社ミットヨ取締役
理事	沼田恵明	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
理事	塩入亮乗	非常勤	令和元年6月26日 (新任)	浅草寺本堂部
監事	中野東禅	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	元第一勧業銀行取締役

評議員

(令和3年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・ 非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	市川智康	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	池上本門寺学頭
評議員	平田史郎	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	阿 純孝	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	圓融寺名誉住職
評議員	西本照眞	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	中川 徹	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	株式会社ミットヨ会長
評議員	中谷忠雄	非常勤	平成29年6月23日 (新任)	元株式会社ミットヨ 代表取締役専務
評議員	逸見道郎	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	浄土寺住職
評議員	石井清純	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和元年6月26日 (増員)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	株式会社ミットヨ経理部長

顧問

(令和3年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・ 非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会元常務理事

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和2年6月10日（水） （令和2年度第1回通常）	【決議事項】 令和元年度事業報告および収支決算報告の件 令和2年度定時評議員会開催の件 【報告事項】 令和元年度資産運用報告の件 貸金ベースアップの件	可 決 可 決 報 告 報 告
令和2年11月26日（木） （令和2年度第2回通常）	【決議事項】 諸規程諸規則改定の件 【報告事項】 代表理事の職務の執行の状況の報告	 可 決 報 告
令和3年3月26日（金） （令和2年度第3回通常）	【決議事項】 令和3年度事業計画および収支予算書承認の件 委員会規則改定の件 役員賠償責任保険契約締結の件 【報告事項】 委員会委員の委嘱について 代表理事の職務の執行の状況の報告 仏教聖典頒布ボランティア募集開始について 週刊法話ステーションスタートについて Toshi Award沼田仏教書籍優秀賞受賞者 講演について	 可 決 可 決 可 決 報 告 報 告 報 告 報 告

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和2年5月28日（木）	令和元年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和2年6月25日（木） （令和2年度定時）	【決議事項】 令和元年度事業報告および収支決算報告の件 【報告事項】 令和2年度事業計画および収支予算の件 令和元年度資産運用報告と令和2年度資産運用方針および計画の件 重要な使用人の選任の件 貸金ベースアップの件	可 決 報 告 報 告 報 告 報 告

以 上

令和2年度事業報告 附属明細書

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 桂 紹隆